

ふれあい

No. 253
July 2010

(題字 院長 佐々木崇)



「優良病院表彰を受ける病院長」(記事1ページ)

【基本理念】

私たちは、医の倫理に高い視点を置いて高度急性期医療に携わる誇りと責任をもち、患者、家族との相互理解を深めて県民に信頼される親切であたたかい病院をめざします。

- 目次 -

優良病院表彰(事務局長).....	1
話題(電子カルテ).....	2
自死家族に対するサポート研修会・	2
活動(災害訓練).....	3
紹介(てんかん外来など).....	4
提言(ふれあいポスト).....	5
地域連携.....	6
お知らせ.....	7

【行動指針】

- 1 私たちは、十分な説明をおこない、良質で安全安心な医療をめざします。
- 2 私たちは、医学、医療の研鑽に励み、本県医療水準の向上につとめます。
- 3 私たちは、県内医療機関との機能分担・連携のもと、高度医療と救急医療を提供します。
- 4 私たちは、本県医療の確保のため、地域医療機関への診療支援に努めます。
- 5 私たちは、臨床研修体制を充実させ、国民の期待する医師の養成につとめます。
- 6 私たちは、健全経営につとめ、効率的な病院運営をめざします。

※ 広報誌「ふれあい」は2,000部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

優良病院として全国表彰！新ダブルウィナーの実践で更なる高みへ！！

事務局次長 小笠原 秀俊

去る5月27日、東京都千代田区にある都市センターホテルで全国自治体病院協議会の定時総会が開催されました。

その席上、平成22年度の自治体立優良病院として当院が全国自治体病院開設者協議会及び全国自治体病院協議会の両会会長表彰を受け、佐々木崇院長が表彰状と記念品の置時計を受領しました。

この表彰は、県立病院のように自治体等が開設する全国の病院を対象に、経営の健全化や改善の実践と地域医療の確保に併せて取り組み、成果をあげている病院を優良病院として顕彰しようとするもので、昭和61年度から毎年度表彰が行われてきており、本県でもこれまでに複数の県立病院等が表彰を受けていますが、当院が表彰の対象となったのは今回がはじめてとなります。

自治体病院の経営が厳しさを増している中、これまで当院が示してきた経営の実績に加え、救急医療や高度・特殊医療への積極的な取り組み、医師等の医療スタッフの養成・確保・スキルアップ、積極的な診療応援を通じたへき地医療機関への支援、地域医療支援病院として行ってきた地域の医療機関

との機能分担・連携活動など、全県の基幹病院として、本県の地域医療の確保に幅広く取り組んできたことが改めて評価されたところです。

また、今回の表彰の趣旨は、当院がこれまで「ダブルウィナー」、「新ダブルウィナー」を合言葉として取り組んできた、医療と経営の両面での質の向上、公共性と経済性の両立を目指そうとするという考えと相通ずるものです。

この自治体立優良病院表彰には、今回の両会会長表彰の他に、既に両会会長表彰を受けた病院の中から再度表彰が行われる、総務大臣表彰がありますが、そうした意味からも今回の表彰はいわば通過点ともいえます。

表彰に満足することなく、昨年度策定した病院経営5ヵ年計画のもとに、スタッフが一丸となって取り組みを更に進めていくことが重要です。



【佐々木崇院長談】

今回の優良病院表彰は、これまで歴代の病院長のもと、当院のスタッフが続けてきた地道な努力の賜物であり、まずもって諸先輩、スタッフ全員に改めて感謝しなければなりません。

もちろん、こうした表彰を受けること自体が自治体病院を運営する最終目的ではないでしょう。しかし、今回、このように優良病院として外部から高い評価を受けたことは病院の各部門、そして各スタッフの取り組みが成果として一つの形を得たということでもあり、今後も院内の各部門がさらに連携、協力し、一丸となって取り組んでいくための重要な契機としてとらえています。

今回の表彰の記念品は置時計ということで応接室に置かれているため、目にする方も限られていますが、もし、次に大臣表彰のような形で評価を受けるようなことになれば、病院のスタッフはもとより、来院される患者や地域の住民の皆様等、多くの関係者が思いを共有できるような形も考えたいですね。



電子カルテの導入について

業務企画室 伊藤 仁

当院では、(平成 22 年)11 月 1 日から電子カルテを導入することになります。

他の岩手県立病院では、磐井・南光病院、久慈病院、二戸病院、中部病院、胆沢病院、大船渡病院、東和病院に既に導入されています。

電子カルテは、医療の高度化のなかで専門性と細分化が進み、地域においても病院と開業医との機能分担が進む中で、医療の質と効率性を持って医療を提供するため、処方、検査、レントゲン等の医療行為の指示機能と診療内容を記録するカルテ機能を併せ持つシステムとして導入が進められています。

院内には膨大な量の患者情報が絶え間なく行きかかっており、この情報を適切に共有しながら、高い質と安全性と効率性を持って医療を提供することが求められています。

今回、電子カルテを導入することにより、院内における医療情報の共

有を適切に行い、併せて将来における地域、病院間の患者情報共有を進め患者サービスを向上させることができると考えております。

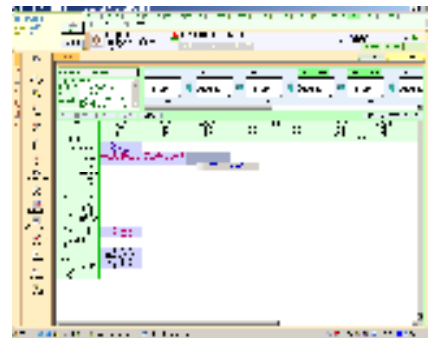
現在当院では、この新しいシステムの導入のため、患者の皆様の受付から検査、レントゲン、注射等の診療を実施後、会計を済ませてお帰りいただくまで、皆様が戸惑うことのないよう既に電子カルテを導入している病院から情報を得て、入院部門及び外来部門を初め各部門においてさまざまな場面を想定し、運用フローの検討をすすめております。

また、新しいシステムの操作に不具合が生じることにより皆様をお待たせすることのないようリハーサルを行い、体制を整備しながら職員一丸となって円滑に導入するべく取り組んでおります。

このように、新しいシステム導入に向けて万全を期すよう訓練を行っておりますが、導入当初は想定外の

事例が発生することが危惧されます。

その際には、迅速な対応に努めますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



【基本方針】

- (1) 電子カルテシステムの情報を当院の診療の機軸として活用する
- (2) 現システムから新システムへのスムーズな移行を図る
- (3) 全人参加により情報化に関する医療者の入力負荷を徹底的に軽減する
- (4) 医療情報の共有化による医療の質向上の実現を志向する
- (5) 電子カルテ以外のシステムも同様に充実させることにより医療の質の向上に資する

自死家族に対するサポート研修会

看護師長 稲見 敬子

救急医療部主催の「自死家族に対するサポート研修会」が6月29日いわて自死遺族支援事業事務局の保健師高橋千鶴子さんを迎え当院大ホールで開催されました。

この研修会は、現場で働く看護師が不幸にしてお亡くなりになられた方の

ご家族のお気持ちを少しでも理解したいと思い研修を企画したものです。

研修会では多くの事を教えて頂きましたが、ご家族にかかる言葉が見つけれなくとも、「私達がそばにいます」と伝わる距離にいる事が大切という言葉が印象的でした。

また、他病院で行われている事例を教えてください、早速当院でも実践できるよう検討をはじめています。

今後も患者さんやそのご家族に寄り添う医療をスタッフ一同、心がけていきたいと思っています。

県内に大きな被害をもたらした岩手・宮城内陸地震から2年が過ぎました。幸いここ最近は大きな被害を伴う地震・自然災害は起こっておりませんが、近い将来大地震が予想されるなど災害医療部としては気の抜けない日々が続いております。

当院でも災害に対して「確固たる備え」を行うために、災害医療部主催で年に2度の院内災害訓練を行っております。

今年度も第1回の訓練を7月14日に行いました。

盛岡市を中心に震度6の大地震が発生し、これにより家屋の倒壊や交通事故、転落、転倒などのため多数の傷病者が救急車や自力で来院する…という想定のもと院長先生をはじめ院内各部門の職員総勢100名以上が参加し、1階の外來部門を中心に傷病

者の検査・処置・X線撮影、病棟や治療部署への搬送、災害本部を立ち上げ、被災状況や搬送された傷病者の治療状況などの情報収集など本番さながらの訓練をおよそ1時間半にわたり行いました。

今回の訓練では今年度初めてということもあり人事異動などで転入してきたなどの理由で訓練参加が初めてという職員も多く、開始前は的確に行動できるか不安げな表情を浮かべる職員もおりましたが、訓練が混乱・遅延することもなく適切な時間で訓練を終えることが出来たと思います。

訓練終了後には以前から配布を検討しデザインを選定、作成を行っておりました訓練参加を証明するステッカーを参加者に配布しました。2年越しの力作でなかなかカワイイ?! デザインです、名札に貼ること

しましたので興味のある方は職員の名札を気をつけて見てみて下さい、今後参加回数に応じてカラーバリエーションを増やしていく予定です。

災害が起こらないことに越したことはありませんが、この原稿を書いている時点でも他県では大雨による水害が起こるなど、今後も気を引き締めて備えなければならぬと思いました。

次回以降の訓練も引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



地域連携・救急対応接遇研修会開催

業務企画室 大沢 純子



7月1日、当院の大ホールにて42名が参加し、地域連携・救急対応接遇研修会が開催されました。この研修会は、1、2年次研修医を対象に開業医や救急隊員からの患者受入の要請の際にどのような対応を行えば良いかを実際に4つの事例をあげて検討を行ったものです。

宮入救急医療部次長の流れるような進行のもと、開業医役を武内副院長、研修医役を野崎救急医療部長が演じました。2人の迫真の演技に導かれるように出席者1人1人が、どの対応に問題があるのか意見を出し合い検討を行いました。その後意見を集約し、良い対応例として橋本医師と牧口後期研修

医が実演を行いました。

最後に「救急に必要な情報収集」と題して、宮入救急医療部次長が講演を行いました。患者情報を整理するポイントをあげ、また情報を得る工夫についてお話がありました。

参加した研修医からは「デモンストラクションがあった事で何がいけないのか、どのように対応するのがいいのかわかり易かった」「学ぶ事が多かった」との意見が寄せられました。今後も緊急性の高い患者さんにより速やかな対応が出来る様、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

てんかん外来のご紹介

診療部長 關 博文

てんかんは有病率が1%であり、我が国では文字通り100万人の病と呼ばれています。一般的によく知られた疾患ではありますが、偏見や誤解が多いために患者さん、家族は疾患名を聞いて必要以上に落ち込んでしまいます。

また薬でも発作が抑制されない難治性てんかんの患者さんも数多く存在しています。その中には、手術治療が奏功することもあります。てんかんの外科手

術に関しては、まだそれほど周知されているとはいえないのが現状です。

本年、4月より東北大学病院てんかんセンター中里信和教授のご好意により、てんかんセンターを開設いたしました。外来は、月1回 水曜日の午前中(9時～12時)、予約制となっておりますので、診療を希望される場合は脳神経外科外来までご一報ください。



【平成22年度の予定です】

(7/7・8/4・9/1・9/22・10/27・11/17・12/15・1/5・2/2・3/2)

リンパ浮腫外来からのご挨拶

理学療法技師長 櫻田 義樹

リンパ浮腫は、リンパ節に何らかの障害が起きることで、リンパ液が溜まって腕や足がむくんでくる状態をいいます。分類は、「一次性(原発性)」と「二次性(続発性)」に分けられ、主にがんの手術に伴うリンパ節廓清や放射線治療後に起こる「二次性(続発性)」が全体の約90%を占めるとされています。また、一般的にリンパ節廓清後にリンパ浮腫が起こる確率は5～25%といわれており、がん罹患数増加に比例してリンパ浮腫を発症される方が増加し数万人に上ると考えられています。このリンパ浮腫における治療は、「スキんケア・リンパドレナージ(マッサージ)・圧迫療法・運動療法」の4本柱からなる複合的理学療法(CPT:

complex physical therapy)が国際リンパ学会でも標準的治療として広く行われています。当院でも、リンパ浮腫の患者様に対して複合的理学療法を提供し、症状軽減やセルフケア習得によるQOL向上を目的にリハビリテーション科において、5月26日より「リンパ浮腫外来」を開始しました。当面は、職員体制不十分のため、関連診療科を受診されている方々を対象に各科主治医からの紹介予約制により診療しておりますが、今後は、体制強化を図りながら、対応可能な理学療法士の育成に取り組んで行く所存です。良きご理解の上、ご協力頂けますようお願い申し上げます。



「リンパ浮腫外来詳細」

診療日：毎週水曜日午後

(主治医からの紹介・完全予約制)

場 所：1F AU3/

リハビリテーション科

担当者：佐々木 透 非常勤医師

(リハビリテーション専門医)

：伊藤 満 理学療法士

(日本リンパドレナージ協会認定)

お問合わせ：9F西/リハビリテーション室 内線：5431(櫻田)・5641(伊藤)

中央検査部を紹介します

中央検査部長 佐熊 勉

中央検査部は大きく4つのエリアに分かれています。分析・形態・輸血部門、細菌部門、生理部門、そして病理診断センターに所属する病理部門です。また、外来診察室寄りの角の部屋では2階外来の採血業務が看護部とともに行われています。中央検査部では大勢が忙しく働いていますが、技師長を中心に非常に良いチームワークを作っています。業務は年々少しずつ拡大し、内容も多様化してきている中で、常に効率的な検査室を模索しています。皆でフリーシフト(部門間の垣根を越えた相互のサポート)を心掛けており、また、今年5月には分析・形態・輸血部門の検査機器の大掛かりな配置換えを行い、作業の動線の短縮を図りました。

検査部は診断の根拠となるデータを提供

する部門であり、迅速で正確な検査結果が求められています。臨床検査は分析の自動化が進んでおり、分析・形態・輸血部門はさながら機械化された工場を思わせますが、それらを操作して有用な検査結果を導き出すのは臨床検査技師です。精度管理が日常的に行われています。研修会や学会を通して研鑽を積んでいます。専門性に磨きをかけた超音波検査や輸血の認定技師もいます。自動分析機から出た検査結果はいつも正確とは限らず、ときに不適切な前処置、検体採取や保管など検査前の要因が影響して誤った検査値を出すことがあります。そのような場合にも「誤った検査値」を見抜く眼を養って行こうと話合っ

ています。中央検査部の「運営マニフェスト」には、院内他部署との連携、各種委員会やICT・NSTの診療支援の積極的参画、試薬・材料管理、人材育成、患者満足、エコー検査の一層の充実といった取り組みがみられます。また、圏域の業務の集約化もあります。

今後、電子カルテ導入によって検査の流れも変わりますが、大切なことは検体の向こうに患者さんの存在を意識しながら、質の高い検査を提供することであると考えています。



ふれあいポストより

ふれあいポストに寄せられた声をご紹介します。



【1.入院】

病室には複数名いて、具合が悪く入院しているのに、隣に見舞い客が来てうるさかったので、客との対面はロビーでお願いしたい。お互い様なのだから体調の悪い人、良くなった人が同室の時に弱者に気を配って欲しい。また、廊下を歩行する見舞い客の靴音がコツコツとうるさい。どうにか指導できないものか。

(70代・男性)

このたびの入院にあたり、他の面会者の事で御迷惑をおかけいたしました、誠に申し訳ございませんでした。患者様が具合悪い状態でおられたにもかかわらず、それに気付かず配慮できなかったことを反省しております。当院は6人部屋が多い事から、少なからず経験されている患者様がいらっしゃるのではないかと思います。恐縮しております。患者様からのご提言について、当病棟の看護スタッフ一同で話し合いを持ちました。そこで、患者さんは、治療、安静のために入院されているということから、原則、面会は食堂兼ロビーのご利用をしていただくことを再確認し周知しました。また、面会者の靴音についても職員が気付いた時には静かに歩行していただくように注意したいと思っております。

(看護部)

【2.入院】

入院時に部屋の用意ができていないと1時間以上も待たされました。事前に何時に入院患者が来るとわかっているのだから、普通ではありえないことだと思います。今後このようなことがないよう改善願います。

(年齢・性別不明)

このたびは、10時の入院予約にもかかわらずお部屋の準備ができず、お待たせする結果になってしまい申し訳ありませんでした。県内の循環器内科が休診し、当院に紹介される患者さんが多く緊急入院が続くため40床のベッドに60人が入院する、満床の状態が続いております。この様な状況から、当日退院された方の後に入院して頂くことも現実です。今回のご提言から入院予約時や入院対応時の説明不足を反省いたしました。また、スムーズな入院準備になお一層努力したいと思っております。

(看護部)



【3.入院】

病棟の献立表の件です。以前は土、日曜日も献立に表記がありました。今はありません。出来れば、土、日曜日も分かれば良いと思います。

(年齢・性別不明)

献立表は土日を含む10日分ずつの表記をしていましたが、それには栄養量が表記されていないものでした。患者様方からの希望や保健所の指導もあり栄養量(熱量・たんぱく質・脂肪・塩分)を表記するようにしたのですが、栄養量を表記するためには5日分しか出力されないシステムのために土日が表記できずに経過していました。ご要望のとおり改善する出力方法を検討しているところです。少しお待ちいただけますようお願いいたします。

(栄養管理室)



【4.外来】

女子トイレを男性が清掃するのはいかがなものでしょうか？

(50代・女性)

女性用トイレを男性清掃員が清掃していることで、不快な思いをお掛けしてしまいお詫び申し上げます。

清掃員の配置については、女性の方が使用される場所へは、できる限り女性清掃員を配置するようにしておりますが、清掃員の雇用状況の関係から全ての場所に対応することは困難であるのが現状でございます。トイレを清掃する際は、清掃中であることを表示することや使用者がいないことを確認してから清掃を開始する等の改善策を検討することとします。

(総務課)

読響ハートフルコンサート

6月22日に公益財団法人正力厚生会主催の読響ハートフルコンサートが行われました。盛岡は、梅雨入りしじめじめした天気でしたが、中央病院にはゆっくりと心なごむ美しい時間が流れました。

コンサートは読売日本交響楽団の弦楽四重奏によるもので、モーツァルトやエルガーなどのクラシックからディズニーの「星に願いを」や「見上げてご

らん夜の星を」など、馴染みあるナンバーが演奏されました。入院中の患者様、外来にいらしていた患者様、付き添うご家族と多くの方が鑑賞しました。50代女性の患者様は「思いがけないところで、素敵なコンサートを聴くことができました。しばらく余韻に浸りたい」と嬉しそうにお話してくださいました。1時間程のコンサートでしたが楽しいひと時でした。



地域連携室からのお知らせ

平成22年診療案内を7月1日に発行しました。病診連携推進にご活用ください。また、院内の各部署にも配布しております。

外来診療スケジュール(紹介患者用)

平成22年7月

診療科	月	火	水	木	金	備考
血液内科	和野	和野・濱田	濱田・佐々木	佐藤	宮入	
総合内科	川村	大和田・橋本	橋本	大和田	菅原	
腎臓内科	中屋	中屋	八幡	八幡	相馬	
精神科	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	要予約
神経内科	高橋	大澤		菊池		
呼吸器科	守	佐々島	宇部	武内	(未定)	
消化器科	池端	村上	小原	城戸	池端・村上	変更有り
循環器科	野崎・花田・遠藤	田巻・野崎・三浦	田巻・野崎・中村	田巻・野崎・高橋	田巻・野崎・高橋	
小児科	前多・荒井・工藤	前多・三上	工藤・斉藤	前多・荒井	前多・三上	特殊外来有 斉藤(第2,3,4水曜・要予約)
外科・消化器外科	望月・鈴木	井上・宮澤	佐々木・白田・武山	中野・櫻庭	望月・村上	
乳腺甲状腺外科	大貫・宇佐美・中野	大貫・宇佐美	大貫・宇佐美	大貫・宇佐美	大貫・宇佐美	
整形外科	宮田・馬場	宮田・藤澤・鈴木		八幡・藤澤	八幡・鈴木	
脳神経外科	菅原		関		三河	
呼吸器外科			新井川	石田		要予約(診察12時半~15時)
心臓血管外科		長嶺・佐久間・小田		垣畑・永谷	長嶺	
小児外科	島岡			島岡		
皮膚科	森・時田	森・時田	森・時田	森・時田	森・時田	
泌尿器科	佐久間	佐久間・岩動		佐久間	岩動	
産婦人科	葛西・岩間	葛西・岩間	鈴木・岩間	鈴木・葛西・岩間	鈴木・葛西	
眼科	久保	佐々木	吉田	佐々木	吉田・佐々木	
耳鼻咽喉科	遠藤・阿部	遠藤・阿部	遠藤・阿部	遠藤・阿部	遠藤・阿部	
放射線科	関澤・及川	佐々木・関澤	佐々木	佐々木	佐々木・関澤	
がん化学療法科	加藤		加藤	加藤	加藤	
ペインクリニック科	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	
歯科・口腔外科	横田・阿部	横田・阿部	横田・阿部		横田・阿部	

- 急患は、休診日にかかわらず24時間いつでも受け入れております。緊急時は、該当診療科へ電話連絡してください。
- CT・MRI等の高度医療器械の利用も紹介患者様を優先します。FAX紹介の際に検査部位を記入してください。
- 詳しいことは地域医療連携室にお問い合わせください。

※外来スケジュールはホームページで毎月更新しています。
<http://www.pref.iwate.jp/~hp9001/iphs/chuohp/index.htm>

TEL 019(653)1151(内線
2191)FAX019(654)5052

☎(たのしみ)あかあ(直通)

患者様は日ごろ診てもらおう、かかりつけ医を持ちましょう！

急性期の入院、救急車での来院、大きな検査や、年1、2回の定期検査時には、中央病院をご利用ください。症状が落ち着いているときの診療は、かかりつけ医にお願いしましょう。

ふたりの主治医
診療情報の共有

かかりつけ医

岩手県立中央病院

お知らせ

◆採用(4月1日～6月31日)

所 属	氏 名				
医師(消化器外科)	武山 大輔				
研修医	小幡 紘	中野 雄介	伊藤 祝栄	近藤 愛子	
	高橋 健一	名取 徳子	大方 英樹	小笠原 聡	
	小野田 充敬	黒澤 千花	黒田 優	松本 信	
	阿部 秋代	加賀谷 裕太	神津 克也	菖野 佳浩	
	津端 英雄	坂本 翼	渡辺 陽子		
看護師	吉野 理江	永井 彩綾	長谷川 愛恵	千葉 真衣	
	晴山 知加	山本 百合香	箱石 悦子	田端 美雪	
	渡辺 珠貴	佐藤 友香	工藤 穂奈美	田川 裕理	
	村上 麻子	菊池 加奈子	三本木 真里奈	菊地 亜耶	
	亀掛川 彩	番澤 志保	及川 千夏	千葉 淑子	
	立花 友美	神山 妙子	鈴木 怜子	渋谷 真弓	
	林 理代子	向田 美樹	中道 淳子	坂本 恵	
	伊藤 裕美	工藤 喜美代	丹野 礼奈	古川 いずみ	
	高橋 尚子	石崎 香奈子	鈴木 佳織		
	准看護師	大森 美和			
	看護補助	小泉 拓子			
	薬剤師	増田 晃			
	診療放射線技師	佐藤 真知	川口 隆史	宮本 岩保	
臨床検査技師	斉藤 匠吾				
理学療法士	高橋 清勝				
栄養士	吉田 早希	佐々木 未央			
調理師	照井 千里				
臨床心理士	阿部 景子	宇田 洋子	中村 茉央		
事務補助員	阿部 瑠美子	古舘 尚子			

★退職(4月1日～6月31日)

所 属	氏 名
医師(麻酔科)	中田 陽子
(心臓血管外科)	早津 幸弘
看護師	榎林 千枝子 千葉 優子 内村 理奈子
准看護師	小林 昌子
看護補助者	細川 千恵子
栄養士	芳賀 麻子 浦田 温子 村上 麻衣子
調理手	小野寺 ゆき子
事務補助員	田村 秀子 川原 雪江 山下 しのぶ

注)定期人事異動による転勤を除く

【お願い】

本誌に掲載する記事、写真、イラスト等を随時募集しています。ご意見・ご感想等とともに、各広報委員にお寄せください。

~~~~~ コ ラ ム ~~~~~

すみれの会 7月6日、当院の大ホールにてすみれの会が開催されました。

講演「ストーマ周囲の基本的なスキンケア」

懇談会「日常生活について」

盛岡市医師会から

5月31日 新型インフルエンザ対策委員会 委員長武内先生のレポートは医局にあります。

勤務医部会から

病院でかかえる問題について情報交換を行います。医療クラークの効率的な運用の実際など取り上げる予定です。

●●●健康講座のお知らせ●●●

予定されているセミナーなどについてお知らせします。なお、受講対象者など詳細についてはお問い合わせください。

日 時	会 場	セミナー・講座等の名称	備 考
9月4日(土) 14:00~16:00	盛岡市・プラザおでつて 3階おでつてホール	岩手県立中央病院健康講座 「知って得する! 救急の知識」	一般の方々向けで、どなたでも参加いただけます。参加無料、予約も不要です。

お問い合わせ先: 医療情報管理企画部業務企画室 電話019-653-1151 内線2196

▲ 編 集 後 記 ▲

暑い毎日が続いております。先日の盛岡北上川ボート下りは中止となり残念でした。この日のためにボートを新調したり、是非とも賞をと意気込んでいたり様々だったでしょうが、中止を決定した実行委員会は苦渋の決断だったと思います。何よりも安全第一です。医療現場

でも苦渋の選択をしなければならない場面が多々ありますが、やはり医療安全という大原則にのっとり日々の診療を行っていきたいと思う今日この頃です。



中央病院広報委員会

■委員長 島 岡 理
望 月 泉 小笠原秀俊
小谷地孝子 宇部 健治
山本 順子 佐々木美奈
田 沼 睦 伊藤 一美
横澤 淳司 佐藤 昭弘
今 野 望 吉田奈穂子



「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1

電話019-653-1151 Fax 019-653-2528

http://www.pref.iwate.jp/hp9001/iphs/chuohp/

岩手県立中央病院